

観光でも地産地消がキーワード

会社のそばに平和記念公園があり、その近くを歩くときはバス停に大きなキャリーバッグと一緒に外国人観光客がかならずバスを待っていた。見慣れた光景だったが、今は町に外国人観光客の姿はない。

広島県には二つの世界遺産がある。原爆ドームと厳島神社。今まではインバウンド効果もあり観光地には内外から多くの人々が来ていた。原爆ドームと平和記念公園周辺には欧米からの観光客の姿があり、厳島神社のある宮島は国内からの観光客も多く、2019年は過去最高の470万人にもものぼった。これは広島に限らず観光名所がある地域では同じような状況ではないだろうか。新型コロナウイルスの世界的な流行で外国人観光客の姿はなく、宮島を訪れる人は5月に前年の9割減となった。

過去に例のない予算規模で「Go To キャンペーン」が始まるが、予定より遅れていることもあり、広島県独自で誘客促進支援事業が7月から始まった。宿泊施設、旅行業者向けの支援事業で予算は30億円。第一次予算は、広島県内在住者に限定されるが、徐々に県外にも広がる。広島県内の観光地に立ち寄りたり、宿泊したりすれば1人当たり2,500円から1万5,000円の補助金がでるので、いつもより安く地元の宿に宿泊することができる。1泊3万円の高級旅館に泊まればかなりお得だろう。ふたを開けてみないと分からないが、人にはどこかに行きたいという欲求はあり、間違いなく人は動くと思う。

4月からほぼ営業休止となっていた関連の旅行会社ひろでん中国新聞旅行では、6月下旬から日帰りバスツアーの販売を再開した。定員をバスの座席の半分以下にするなど感染予防対策を施し、反応は上々だそうだ。広島県では新型コロナウイルスの感染拡大が落ち着いていることもあるだろうが、どこかに行きたいという欲求も大きいと思う。宮島には何度も行ったが、宿泊したことは1度だけしかない。それも労働組合の勉強会だった。せつかくの機会だし、家族で宿泊するのも思い出作りになるだろう。観光でも地産地消がキーワードになる。

中国新聞社 執行役員 地域ビジネス局長 橘高知樹



安芸の宮島とも呼ばれ、日本三景の一つである国宝の厳島神社。海に立つ高さ16メートルの大鳥居（重要文化財）は日本三代大鳥居の一つ



世界文化遺産へ登録された原爆ドームは、時代を越えて核兵器の廃絶と恒久平和の大切さを世界へ訴えるシンボル